



今回の出張は、中国内陸部に点在する丁場を巡る行程なのですが、実際のところ石の掘り口に滞在しているのは1か所につき1時間前後ですので、そのほかの時間はほぼほぼ移動時間になります。

つまり睡眠と食事の時間を除けば9割がた車・電車・飛行機での移動、およびその待ち時間が占めます。最初のうちは石の情報を聞いたり、世間話に加わったりもしてみますが、なにせ10日間近くおっさん4人で一緒に行動していますので、話題も尽きてくるわけです。まあ、それぞれ携帯いじったりiPadでネットしたり仮眠取ったりするのですが、私の手元には15年以上前に会社で購入したNOKIAのガラケーしかありませんので、メールチェックさえまなりません(2012年当時です。現在はもう少し便利です 笑笑)。



どうしても時間を持て余してしまう時には、携帯に入っている「へびつなげゲーム」(へびのキャラクターを上下左右に動かして、エサを食べながら体を伸ばしていく)をやってみるのですが、1980年代のゲームウォッチ未満の遊戯性のため、がんばっても5分も経たないうちに飽きてしまう代物です。

個人的にはどの地域の食事も美味しく頂ける性分ですので、移動時の腰痛や持て余しがちな時間とどう向き合うかが、長距離移動のハードルの一つと言えるでしょう。。

さて、出張記に話を戻します。



かなり南下してきたので、前日までの河北省や山西省に比べると体感的にも温かく感じる湖南省ですが、日本の石材業界では昔より「G213」や「G9426」など馴染みの深い石種が多く、福建省や黒龍江省、山東省などに次ぐ石材産地として知られています。

前泊地の山西省太原(上記地図のDの場所)から湖南省長沙(地図のHの場所)へ空便で移動、そこから動車(中国版新幹線)で岳陽市(地図上のF)に移動し、次の目的地で

ある“桃花山”と呼ばれる採掘地を目指します。



左の写真は、「G 9 4 0 2」と呼ばれる白系の石の採掘現場です。

この石種自体は歴史が古く、30年ほど前には弊社でも原石輸入を行っていましたが、その後福建省で「G 6 1 4」や「AG 9 8」が採掘され始めたため押し出される形で日本向けの供給は縮小。以降は中国国内向けの建材用石材として生産してきたようです。

近年、福建省の採掘地が、一つまた一つと閉鎖されるのに伴い、中国内陸部の石種の存在が見直され、最近では「中島石」の名称でリバイバルされています。（2020年現在、G 9 4 0 2の丁場は、採掘継続の申請中とのこと）

この丁場は、同行して頂いたウーさんの所属する会社の関連企業が投資・経営を行っており、ちかくには建材工場もあります。



主に中国国内向けの板石を生産していますが、写真のように大量の在庫品が積み上がっており、2008年の北京オリンピックが終わった後も中国国内の景気は衰えていないのだな、と感じました。

湖南省編、もう少し長くなりそうですので、続きは来月へ・・・次回は「湖南料理ってご存知ですか？」という内容です。今月もありがとうございました！

2020/10/01